

# 国土交通省東北地方整備局との意見交換会が開催されました

広報委員会渉外部会

平成14年12月12日午後、国土交通省東北地方整備局と東北地質調査業協会との意見交換会がハーネル仙台を会場にして約1時間半にわたり開催されました。出席者は下記の方々です。

## 国土交通省東北地方整備局

大内忠臣企画部長  
金内剛技術調整管理官  
小山利直技術開発調整官  
小山内金仁道路調査官  
柳町俊章技術管理課長  
國松廣志技術管理課長補佐

## 東北地質調査業協会

宮川和志理事長  
奥山紘一副理事長  
土生田政之副理事長  
成田賢総務委員長  
中村昌弘技術委員長  
中嶋幸房広報委員長  
松淵稔美事務局長

意見交換会は國松技術管理課長補佐が司会を務められ、大内企画部長と宮川理事長の挨拶の後、双方の参加者の紹介があり、本題に入りました。

協会では今回の意見交換会に先立ち、東北地方整備局に対する質問事項や要望事項、提案事項などを資料としてまとめ、事前に東北地方整備局に提出してありました。内容は、次の通りです。



大内忠臣企画部長の挨拶



宮川和志理事長の挨拶

## はじめに

1. 省庁再編に伴う東北地方整備局の組織と役割、その後
2. プロポーザル制度
  - ①発注量の動向
  - ②プロポーザル評価点の公開
3. 専門業者と有資格者の積極的活用
  - ①専門業者の積極的活用
  - ②有資格者の積極的活用
4. 低価格入札問題
5. 社会貢献への取り組み
6. オールコアボーリングとコア標本箱の保管
  - ①オールコアボーリングの指定
  - ②コア標本箱の保管問題
7. 意見交換の場の継続
  - 添付資料-1 東北6県の地質調査業容の推移
  - 添付資料-2 全国地質調査業協会連合会倫理綱領
  - 添付資料-3 東北地質調査業協会が主催・共催した教育研修プログラム
  - 添付資料-4 東北地質調査業協会災害緊急連絡体制

事前に提出した資料の内容については中嶋広報委員長が説明を行いました。これに対して金内剛技術調整管理官から関連資料を用いて説明と回答があり、ディ

スカッションに移りました。その概要は、業界紙に大きく取り上げられましたので、既にご承知の会員も多いかと思えます。

今回は2回目の意見交換会となりましたが、率直な議論を通じて当協会の存在を東北地方整備局にアピールできたと思います。特に当協会メンバーの身近な問題であるオールコアボーリングの指定とコア標本箱の保管問題に関しては、かなり具体的なディスカッションができました。追って協会としての施策が出されるものと思えます。

一方、東北地方整備局が東北管内の公共事業に対して、大変厳しい見方をしていることが判りました。次年度以降も従来型の調査業務は減少するので、事業量確保のためには新分野の開拓などが不可欠のようです。

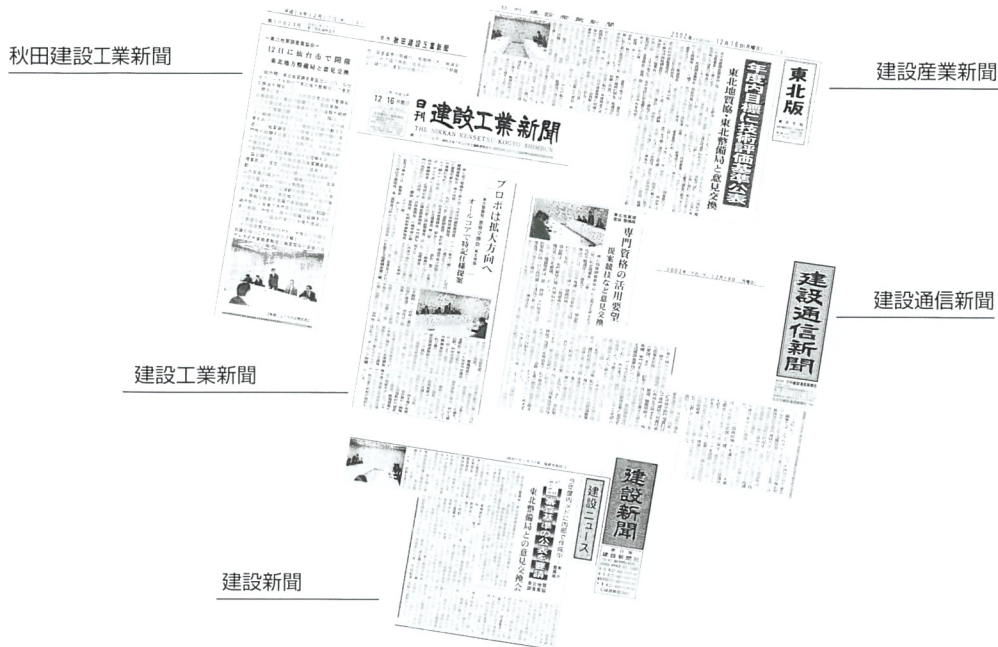
この意見交換会を契機として地方自治体など他の発注者との意見交換会を持ち、当協会および会員の存在をアピールして

行きたいものです。そのためにも東北地方整備局との意見交換会を継続的に開催してゆく事が重要であると思えます。



協会側の出席者

プロポーザル制度に関しては、強く推進を要望すべきかどうかを確認するためにアンケート調査を実施しました。結果は、高度な技術を要する業務などの特定業務に限定して推進することが望ましいとの回答が過半数で、全面的な移行に関しての前向きな回答は少数でした。この結果の一部は74ページに掲載しています。また、詳細はホームページで公開する予定です。



意見交換会開催を報じる業界紙